



「～たい」が生まれる授業

校長 下 畑 茂

◇授業を通して、主体性を育む

「せーの」「あかるい あさひだ あいうえお」入学して3週間。1年生の教室から元気な声が聞こえてきます。

今年度、飯地小学校は低学年、中学年が複式学級となります。2学年が一緒に授業では、先生が直接指導する時間と学習リーダーを中心に自分たちで授業を進める時間があります。「複式性」の良さは一つ上の学年の学びの姿を手本にできることです。進級したばかりの2年生算数では、問題を見て「私は数字の式で考えます」「ぼくは帯グラフをかきます」「ぼくは○図で説明します」と自分の解き方を選択して、見通しをもって学ぶ姿が見られました。その後、それぞれの解き方を「交流したい」と授業が進んでいきました。こうした2年生の学び方に刺激を受けた1年生。前に立って、ミニ先生を経験しながら自分たちで授業を進める基礎を身につけています。

担任は、どの教科でも子ども達の「～したい」の声を敏感に拾い上げ、「どうしてそう考えたの?」「どうしたらそれはできる?」「やってみてどうだった?」と問いかけ、子ども達が自ら学びを深めていく力を育てていきます。

◇「五毛座歌舞伎公演」参加

役者7名(卒業生1名含む)が3月より稽古に励んできました。なかなか台詞を覚えられずに苦勞したと聞きました。お風呂の中や寝る前に布団の上で何度も声に出して練習したそうです。学校ではブランコに乗りながらお互いに台詞を掛け合う姿がありました。本番の舞台。経験したことがない程ドキドキしたことでしょう。家族に見守られながら、世代を越え、地域の方と共に役を見事に演じ切る姿に感動しました。やり終えて「楽しかった」「またやりたい」の感想が聞かれました。指導をしてくださった歌舞伎保存会の方や「いいじっ子サポーター」の山口鉦一さんが「初めてでも、大きな声が出ていたよ」と話されました。200人を越える観客の前でも堂々と演じ切れたこと。普段の学校生活で大切にしてきた「ぼくは・わたしはこう思う」とはっきりとした声で自分の考えを話す経験が、こうした場面で発揮され、本物の力になっていることを嬉しく思いました。地域の伝統文化を受け継ぐ一人として、今後も「ふるさと学習」を通して飯地の良さに触れながら、学んでいけることが楽しみです。

飯地小学校運営協議会コーナー

令和7年度 第1回運営協議会

4月14日(月)開催

～地域ぐるみで育てたい姿『豊かな体験を通して、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ』～

第1回の学校運営協議会が開催されました。委員の皆様方、本年度もご支援の程、宜しくお願い致します。早速に「いいじっ子サポーター」のご協力の下、「ふるさと学習」が始まっています。「地域の良さ(人・もの・こと・場所・文化等)を教えてくれる人達はすごい。ありがたい。この人達がこんなに大切にしている飯地だから、自分もこの地域のために何かしたい」そんな思いが生まれてくる学習活動を、今年度も目指して参ります。

- 会 長： 瀬瀬 佳恭 様 【飯地自治区協議会 会長】
副会長： 柘植 賢二 様 【地域学校協働活動推進委員】
委 員： 平井 肇 様 【壮健クラブ会長】
山口 鉦一 様 【ふるさと民俗資料館 館長】
永治 治 様 【飯地振興事務所 所長】
山田 芳彦 様 【飯地三学塾 塾長】
瀬瀬 清一 様 【民生児童委員長】
楠 むつみ 様 【主任児童委員】
平井はな恵 様 【令和7年度 PTA 会長】

